

A vibrant, high-contrast photograph of a waterfall in a dense forest. The water is bright white as it falls, surrounded by deep green foliage. The scene is captured from a low angle, looking up at the waterfall.

大阪府箕面市全小中学校での オンライン授業

箕面市 令和2年6月

箕面市のICT教育

電子黒板

小学校	12校 (全校)	334台
中学校	6校 (全校)	152台
小中一貫校	2校 (全校)	68台
計		554台

- ・ 全普通教室に60型電子黒板
- ・ 移動式60型電子黒板 (各校6台程度)
- ・ 書画カメラ (実物投影機)



タブレット

	H30	⇒	R2
小学校	12校 (全校) 4300台	⇒	8300台
中学校	6校 (全校) 800台	⇒	3800台
小中一貫校	2校 (全校) 1000台	⇒	2400台
計	6100台	⇒	14500台

- ・ 児童生徒用タブレット
- ・ 教員用タブレット
- ・ 充電収納庫
- ・ 授業支援ソフト
- ・ デジタル教科書

↓
[小4～小6]
全員に1人1台

↓
[小中全学年]
全員に1人1台
(R2年度中)



これまでのICT教育の取り組み

(平成26年度)

- 全小・中学校の全クラスに電子黒板を設置するとともに、一部の学校でタブレットの配備を開始。

(平成28年度)

- 総務省の先導的教育システム実証事業を活用し、小学校1校で4～6年生（児童237人）に、1人1台のタブレット端末を配備して、その教育効果を検証。

(平成30年度)

- 全小学校4～6年生に、1人1台のタブレット端末を配備。小学校1校・中学校1校をモデル校とし、全児童生徒に端末を配備。

(令和2年度)

- 令和元年度補正予算「GIGAスクール構想」予算を活用して、小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒全員（約1万2500人）に1人1台のタブレット端末を配備予定。



新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた 児童生徒の学びの保障のための基本的な考え方

- 児童生徒が家庭で自主学習を続けざるを得ない状況がある中、自身の力で学習を進めることのできる児童生徒や、塾のオンライン授業を受講したり、保護者などからの学習支援を受けたりして、しっかり学習習慣が身についている児童生徒が多くいる。
- 一方で、ひとりでは学習が進まない児童生徒も一定数おり、すでに学習内容の定着に大きな差が生じていることが危惧される。



公教育の責任として、一刻の猶予もなく、できうる限りの手段を活用して児童生徒の学習活動を保障していく。

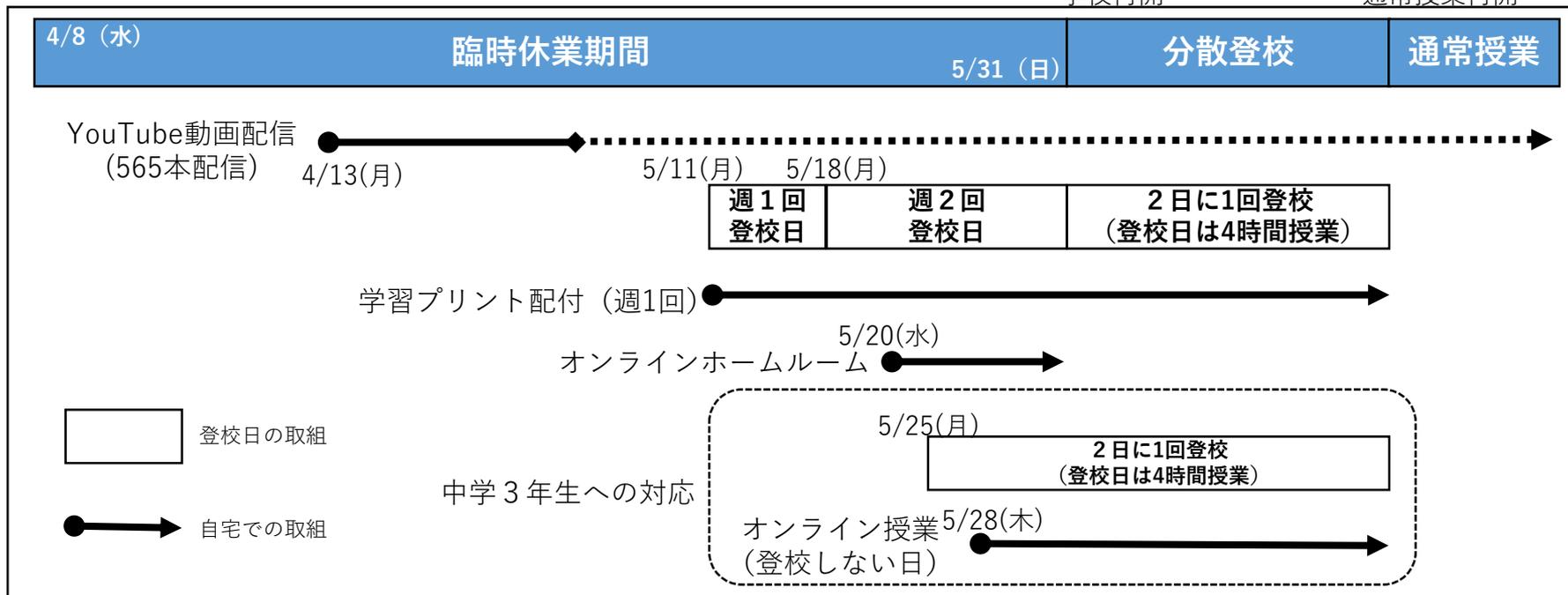
新型コロナウイルス感染症の影響による市立小中学校の臨時休業期間中の学校の対応

- 国や大阪府教育委員会からの助言を踏まえて、4月8日（水）から5月31日（日）まで臨時休業。

4月末

6/1（月）
学校再開

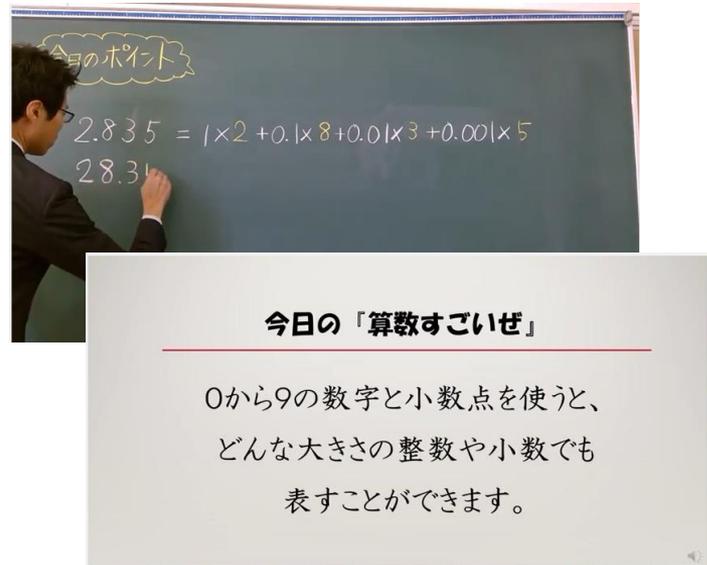
6/15（月）
通常授業再開



具体的な取り組み①

「YouTube授業」で児童生徒の学習をサポート

- 箕面市内小中学校教員が協力して565本の授業動画を作成
(動画は、通常の45分授業を約10分程度に凝縮)



- 4月13日(月)から順次動画配信

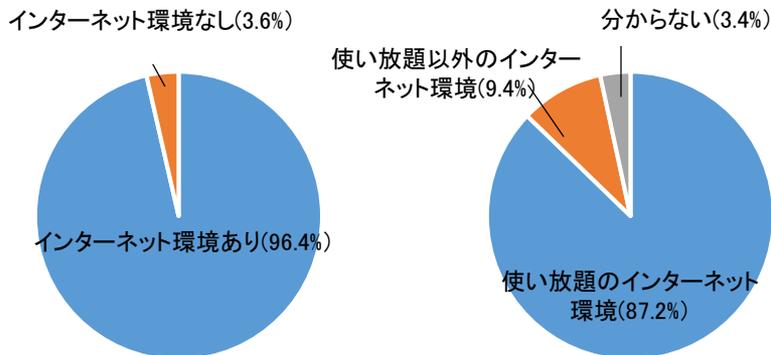
具体的な取り組み②

家庭のICT環境アンケート

- 双方向型のオンライン授業の実施は、格差を是正するために必要な手段。
- 早急に家庭のオンライン授業の実施環境を整えるためのアンケートを実施。保護者の協力を得て、家庭のICT環境が整わない場合のタブレット端末やルーター等の貸し出しを進める。

◇保護者へのインターネット環境のアンケート調査結果 令和2年4月24日～4月29日

対象:全小中学校8,705世帯 回答数:7,696件 回答率:88.4%



アンケート質問内容・結果	アンケート結果に基づく推計台数
インターネット環境無し 3.6%	314
光ファイバ等の使い放題以外のインターネット環境 12.8%	1,115
合計	1,429

具体的な取り組み③

国の第1次補正予算を活用したオンライン学習環境の整備

- 双方向型のオンライン授業の実施の準備を進めているタイミングで、国の第1次補正予算において、緊急時における家庭でのオンライン学習環境整備に必要な予算が計上され、これも活用して必要な環境を整備。

箕面市 オンライン学習環境の整備 (概要)

【箕面市R2補正予算】歳出50,736千円
歳入15,280千円
5月15日市長専決

●Wi-Fi環境が整っていない家庭に対して貸出用モバイルルーターの配備：1,000台

●モバイルルーターの通信費
20GB/月：2,202円×10ヶ月×1,000台
など

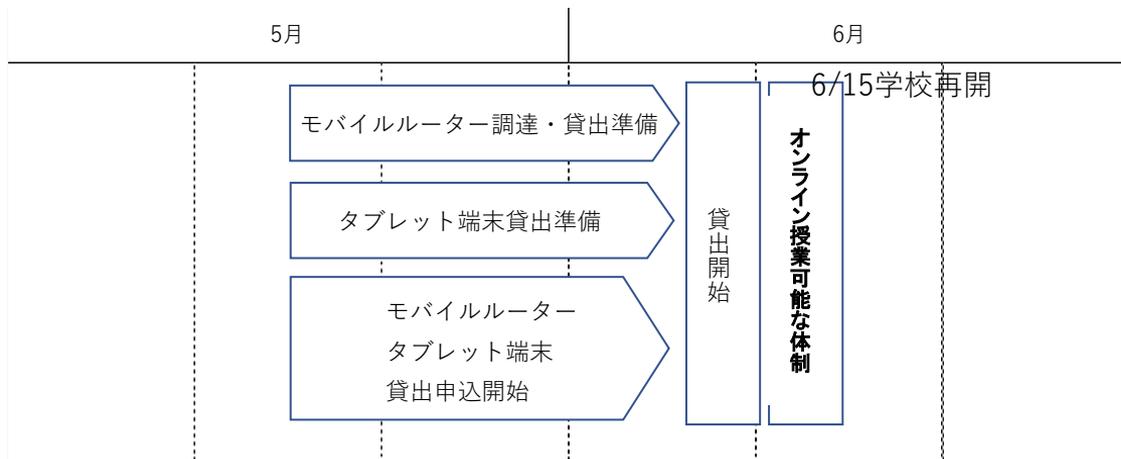
GIGAスクール構想の加速による学びの保障 令和2年度補正予算額 (案) 2,292億円

目的 「1人1台端末」の早期実現や、家庭でも繋がる通信環境の整備など、「GIGAスクール構想」におけるハード・ソフト・人材を一体とした整備を加速することで、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早急に実現

児童生徒の端末整備支援 ○「1人1台端末」の早期実現 1,951億円 令和5年度に達成するとされている端末整備の前倒しを支援。 令和元年度補正予算案(小5.6,中1)に追加。現行の中2.3,小1~4すべてを補償 対象：国・公・私立の小・中・特支等 国公立：定額(上限4.5万円)、私立：1/2(上限4.5万円)	緊急時における家庭でのオフライン学習環境の整備 ○家庭学習のための通信機器整備支援 147億円 Wi-Fi環境が整っていない家庭に対する貸与等を目的として自治体が行う、LTE通信環境(モバイルルーター)の整備を支援 対象：国・公・私立の小・中・特支等、年収400万円未満(約147万台) 国公立：定額(上限1万円)、私立：1/2(上限1万円)
○障害のある児童生徒のための入出力支援装置整備 11億円 視覚や聴覚、身体等に障害のある児童生徒が、端末の使用にあたって必要となる障害に対応した入出力支援装置の整備を支援 対象：国・公・私立の小・中・特支等 国立、公立：定額、私立：1/2	○学校からの遠隔学習機能の強化 6億円 臨時休業等の緊急時に学校と児童生徒がやりとりを円滑に行うため、学校側が使用するカメラやマイクなどの通信装置等の整備を支援 対象：国・公・私立の小・中・高校・特支等 公私立：1/2(上限3.5万円)、国立：定額(上限3.5万円)
学校ネットワーク環境の全校整備 71億円 整備が可能な未光地域やWi-Fi整備を希望し、令和元年度補正に計上していなかった学校ネットワーク環境の整備を支援 対象：公立の小・中・特支、養育学校等 公立：1/2	○「学びの保障」オンライン学習システムの導入 1億円 学校や家庭において端末を用いて学習・アセスメントが可能なプラットフォームの導入に向けた調査研究
GIGAスクールリポーターの配備 105億円 急速な学校ICT化を進める自治体等を支援するため、ICT関係企業OBなどICT技術者の配備経費を支援 対象：国・公・私立の小・中・高校・特支等 国立：定額、公私立：1/2	施策の想定スキーム図 文科省 ← 申請(補助) → 都道府県 ← 申請(補助) → 市町村(小中学校等)・学校法人 ※上記は公立及び私立のイメージ。国立は国が直接補助

具体的な取り組み④

機器の調達・貸出・接続テスト



● 5月11日 (月)

モデル校でのZoomによるオンラインホームルームの実施（家庭の接続環境の確認）

● 5月20日 (水)

全小中学校でZoomによるオンラインホームルームを実施

● 5月12日 (火)

全小中学校での教員の接続テスト

● 5月28日 (木)

受験を控える中学3年生の学習機会を早急に確保するため、他学年に先駆けて、オンライン授業を開始

オンラインホームルームの実施

■ オンラインホームルームの意義

[通信の負荷状況の確認] [家庭環境で円滑な接続の確認]
[教員や子どもたち同士がつながる貴重な場]

※端末やネットワーク環境が整っていない家庭の児童生徒については、オンラインホームルームに参加できないことから、担任からの電話連絡によって疎外感を生まないように配慮を実施。

■ オンラインホームルームによる課題の洗い出し

試験運用の期間でもあり、教員や児童生徒がZoomに上手く接続できなかった。まだ操作に慣れていないことや、小学校低学年では保護者がいないと一人では操作が難しいなど。



端末を初めて使用するような児童生徒、またその保護者にとっては、オンライン授業に向けた準備期間としての役割

オンライン授業の先行実施

■ 受験を控える中学3年生にオンライン授業を先行実施

受験を控える中学3年生の学習機会を早急に確保するため、他学年に先駆けて、5月28日(木)からオンライン授業を開始。



(参考) 市立中学校3年生1153人
(4/1時点)

- タブレット端末貸出
466台 [40.4%] (5/27時点)
- モバイルルーター貸出
136台 [11.8%] (5/27時点)

オンライン授業の課題

■ ネットワーク接続がうまくいかない場合や支援の必要な児童生徒への対応

オンライン授業が受けられない理由は様々であると考えられることから、そのような児童生徒には、登校して学校のネットワーク環境を活用することや、教員が個別支援を行うなど、児童生徒の一人一人の事情に応じた対応を実施。

(※) 特別な支援が必要な児童生徒については、文部科学省の助言通知を基に作成したガイドラインを踏まえて対応。

■ 機器の不調等への対応

オンライン授業に参加することができなかった児童生徒が録画機能を使うなどで、あとで見ることができるよう、今後、Zoomの録画機能を活用する方向で検討中。

■ Zoom活用に係るセキュリティ対策

オンラインホームルームやオンライン授業に対する保護者からのご意見

- 「ネットを利用した双方向の授業の普及をぜひ進めてほしかったので、とても良かった」
- 「息子が先生やクラスの友だちに会えて、とても喜んでいます。」
- 「不登校で学校に行けなかった娘がオンライン授業で出席することができた。コロナが終息しても引き続きオンライン授業を実施してほしい。」

- 「仕事で休めない中、子どもをオンラインホームルームに参加させる準備ができない」
- 「端末のマイクの設定ミスで音声伝わらなかった」

夏季の取り組み

- 指導時間の確保を念頭に、夏季休業日を約2週間に短縮 [8/7(木)~21(金)]
- 8月3日(月)から6日(木)は、暑さを考慮してオンライン授業を実施
8月6日(木)はオンライン終業式も実施
- 8月18日(火)から21日(金)は自由参加のオンライン補習を実施

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26		
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水		
1																	OL授業日(OL終業式)																						
2	授業日							授業日																															
3																		夏季休業日																					
4																																							
5	補充							補充																															
6																																							

※例年の夏季休業日は7月21日から8月25日

今後のオンライン授業等のあり方

- 新型コロナウイルス感染症の影響がなくなった場合でも、例えば、次のような場面での活用することについて検討

(活用例)

- 不登校児童生徒が、学校で実施する授業にオンラインで参加
- 不登校児童生徒に対するオンライン教育相談
- 院内学級の児童生徒に対するオンライン授業
- 国内や海外の学校との交流学習

(参考) 箕面市教育委員会の臨時休業期間中の取組 (令和2年度)

国や大阪府教育委員会からの助言を踏まえて、4月8日(水)から5月31日(日)まで臨時休業。

4月中旬には、YouTube動画配信による家庭学習の支援。

5月11日(月) 週1回の登校日(～5月15日(金))
家庭学習プリントによる支援(週1回配布)(～6月12日(金))
モデル校でのZoomによるオンラインホームルームの実施
(家庭の接続環境の確認)

5月12日(火) 全小中学校での教員の接続テスト

5月18日(月) 週2回の登校日(～5月29日(金))
全小中学校での家庭の接続テスト

5月20日(水) オンライン授業の開始に備えて、全小中学校でオンラインホームルームを実施

5月25日(月) 中3については2日に1回の登校で午前中4時間授業

5月28日(木) 中3について先行してオンライン授業を開始。登校しない日は、家庭でオンライン授業を受ける。教科担任制を踏まえて、各中学校の担当教員1名が最大110人程度の生徒に対して一斉授業

6月1日(月) 学校再開。全小中学校で2日に1回の分散登校で午前中4時間授業
中3については、引き続き登校しない日はオンライン授業を実施

6月15日(月) 通常授業を開始